

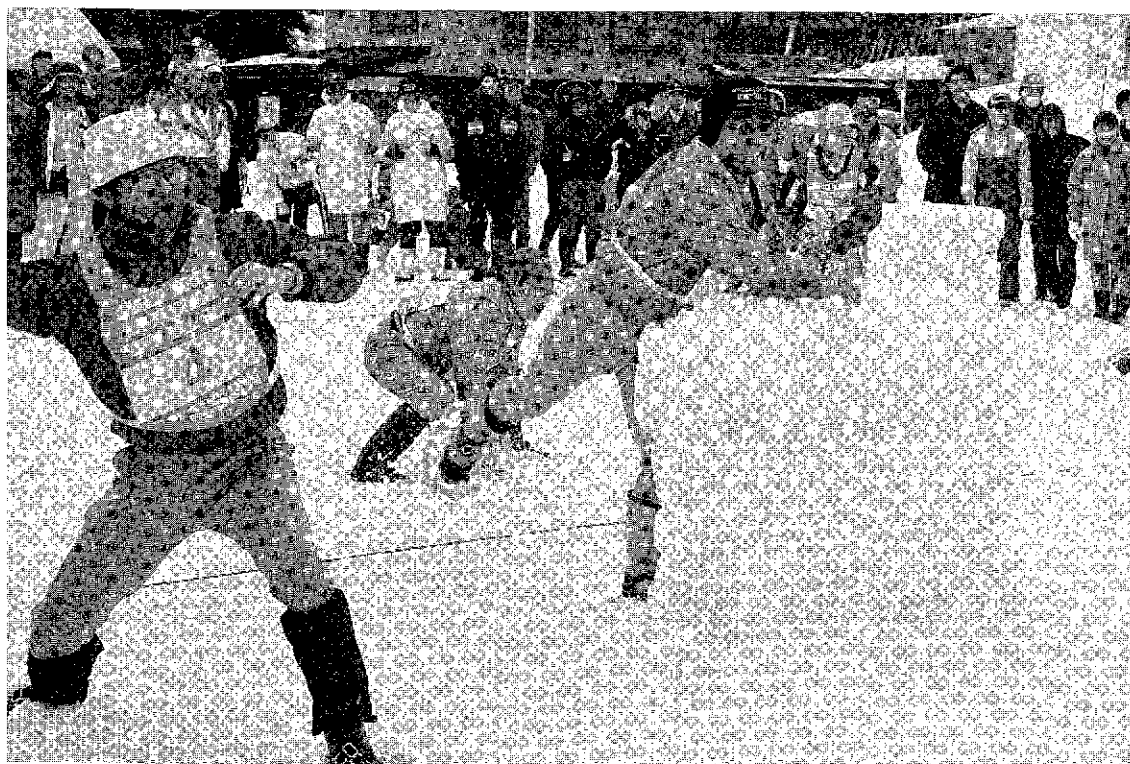
新潟県

平成4年

公民館月報

2月
第468号

関プロ公研集會に学ぶ(4) 座談会 分科会からの提言 ㊦



小出郷雪合戦の由来

起源は戦国時代に遡る。越後の雄長尾為景と上杉定憲の争いは、領土全土を戦乱の渦に巻きこんでいた。

小出郷「一本杉の戦」いが昼夜を徹して戦われ、矢尽き、刀折れ疲れ切った双方の将は、相手を物凄い形相で睨みつけたまま雪原に膝をつき肩で息をしていた。

……その時である。為景は握りしめた雪玉を相手に投げつけた。額に受けた定憲もとつさに雪を投げかえした。……

この模様を目撃した領民によつて後の世に語り継がれ、平成の世の雪合戦が復活。雪国小出の独自の文化と精神の復活である。

〔写真・資料提供〕

小出町中央公民館

県公連の一年を回顧

協力を貴重なる財産に!!

多くの問題提起のあった年

平成三年度は、公民館関係者にとり、とりわけ、当県公連にとって例年になく多くの問題提起のあった年である。

第一は、六月に国の生涯学習審議会によって中間報告された「公民館の整備・運営の在り方について」である。ここでは、

「市町村における生涯学習の中核施設としての役割を担う」ことを明記し、そのための機能の列挙、職員体制の整備充実にふれている。しかし、これが単に「望ましい公民像」であるとするとどまるのか、国・県の協力的な援助がなされるのか、は

公民館の質的充実方策を追求

十七分科会に千四百人が集う



第32回関プロ公民館研究会終り

関プロ公研集を終えて 誠実な対応に好感

県公連の課題も浮き彫りに

第32回関プロ公民館研究会は、別表のスケジュール表のとおり、平成三年度の研究会として、二月に開催された。この研究会は、別表のとおり、二月三日(土)に開催された。この研究会は、別表のとおり、二月三日(土)に開催された。この研究会は、別表のとおり、二月三日(土)に開催された。

明確ではないが、住民の期待に応える公民館となるための自助努力は今後一層必要となろう。

第二は、九月に実施された関プロ公民館研究会の主旨によって、広く関係都県の多彩な事業や質の高い活動を学ぶことができた。この成果を、今後に活かす努力が必要となろう。

また、主管県として運営に当たり、全県の協力態勢により高い評価を得ることができた。これを本県公連の貴重な財産として、今後継承しなければならぬ。

第三は、当県公連の主催事業として新規に開設した「公民館長研修会」が予想以上の好評を博したことである。これを更に来年度に継続開設して、より充実した内容にすることである。

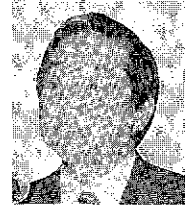
第四は、主事等職員の、諸課題への取り組みに関する、研修や情報交換、相互連携や連帯感醸成のための事業の新規開発の必要も浮き彫りになった。

これらの問題解決のために、来年度は、さらなる努力の求められる年にならう。

今、地域・家庭から

非行をなくすために

稲村 博



最近の思 春期前後の 若い人たち について “新人類”

などと呼ばれるように様変わりしています。その中には、健全で良い方向を示している面も多のですが、好ましくない問題を持った面も多くあります。

ここでお話しするのは後者の面についてです。その「問題」を持つ家庭は大別して二つのタイプに分けることができます。

○古典型問題家庭(外見で見える問題家庭、例えば、家庭の親子関係の欠陥、両親(夫婦の不倫問題など)の欠陥等。

○現代型問題家庭(外見では問題が見えない。思春期になって、学業成績が親の期待に届えられない、親の望む高校へ行けなかった、などの理由によるもの。

前者のタイプは、愛情飢餓が主要原因で、問題行動は、非行や登校拒否などで現れる。このような問題行動は諸外国にも多く、対応策の研究は国際的に進んでおり、比較的対応は容易。後者のタイプは、両親の期待

過剰などによるもので「引きこもり」と言って部屋の中に閉じこもり、学校の先生や友だちは無論のこと両親とも口をきかず、閉じこもったままになっている。この種の問題行動は、日本独自のものです、対応が極めて難しい。しかも、この「引きこもり」は今後ますます増大する傾向にある。

その数少ない研究例から対応策として言えることは、古典型も現代型も共通して、愛情と信頼の絆を太く強くすることである。両親はもとより家族間の信頼を得ること、学校や地域社会の温かい愛情と信頼関係が不可欠である。

そのため、公民館としては、このような青少年の問題を地域の課題として取り上げる役割を持っている。また、最近学校週五日制がしきりに取りざたされているが、その場合「子どもにとって五日制がなぜ必要か」という視点からは是非論を検討すべきものであろう。

精神科医・筑波大学社会医学系助教、社青年健康センター副会長

平成四年度公民館建設費等国庫補助 一発満額内示の快挙

公民館 一四四館 四五億三、六〇〇万円
 大型公民館 三館 三億四、〇〇〇万円
 公立生涯学習推進センター 一館 三億円(債務負担一館)
 社会教育施設活性化支援事業 一億四、四〇〇万円

平成4年度に向けての公民館施設等の国庫補助額が十二月二十四日、一発で満額内示があった。例年は、この時期になると、

要求額は二億一、〇〇〇万円。きまって復活陳情運動がなされたものである。今年度も、全公連全公振連では協力し、関係者の上京による陳情運動を展開すべく態勢を整えていたところで

あったが、満額内示により、喜びとともに拍子抜けの感がなくもなかった、というのが実情であろう。ただ、社会教育施設活性化支援事業の予算が十分でなかったため、これが復活に向けての陳情がなされたことは言うまでもない。このような、例年ない現象が生じたのはどうしてであろうか。生涯学習審議会の中間報告と、それを背景に文部省当局者の積極的な取り組みの成果なのである。文部省の努力に敬意を表する次第。

辛 口

今、公民館を一番楽しそうに利用しているのは、シルバークラブの皆さんではないかと思ふ。年を重ねても身体的に動き回り学ぼうとしている姿は美しく尊い。サークル等の利用も多く、公民館はいつ

今、公民館を考える

太田 千代子

私たちは、家事に、パートに、カルチャーにと忙しすぎる、でも、それだけなのだろうか。公民館そのものに魅力がなくなっていることはないのだろうか。

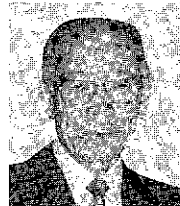
座の内容は「女性史」や「政治のしくみ」や「老後問題」が中心だった。そして、この老後問題は姿を変えて「ゆずの葉」という老人向けミニコミ紙とし

もにぎわっている。しかし、若者や主婦たちが少ないのはどうしてだろう。若者たちは情報化社会の中で得た多様な趣味を生かして、集団活動は苦手な方もいれない。主婦ができた。その頃の講

て発刊され、今年で五年目を迎える。こう考え、振り返ってみると、公民館という存在がはっきり見えなくなったような気がする。もともと公民館とは住民の文化や教養を高めるためのもの。そのためには、時代をきちんきちんと捉えられる職員がほしいし、参加者とともに学ぶことのできる職員がほしい。公民館は素晴らしい職場……私はそう思い、願っている。

学習グループの「会員のしおり」を発行

佐藤 貞 正



新潟市坂井輪地区公民館には、団体登録をして定期的に学習活動

を続けているグループが現在一九を数えます。

今年「利用団体連絡協議会」が結成されて五年目に当たります。

ひ ろ ば

この「役員必携」は、研修用として実務的な内容を中心に編集しましたが、さらに、理念的な内容も増補・改訂し、新たに「会員のしおり」として、加入団体の全会員に配布できるように準備中です。

一応、二月下旬に開催する第十回団体運営研究会までに印刷し、当日は内容を解説した上で、団体代表を通じて、二三〇〇人の会員に配布する予定です。

内容は、第一章で生涯学習の時代、以下、公民館、登録団体と公民館の利用、学習グループ、利用団体連絡協議会、文化祭・芸能祭・関連行事の運営、資料編の七章編成になっています。(B5判・56ページ)

公民館を利用して、定期的に活動を行っている学習グループは、生涯学習時代の主流派であるという確信をもってよいと思えます。この「会員のしおり」が、学習グループの健全な運営と活動の活性化に役立つことを願っています。

(新潟市坂井輪地区公民館運営委員・利用団体連絡協議会長)



三、国際化社会と公民館

多彩な理解と交流の活動

上村 国際化社会と公民館の分科会について、大淵さんどうぞ。大淵 実践発表のテーマは「国際理解と国際交流活動」についてで、発表者は鎌倉市中央公民館の方でした。観光都市鎌倉だけあって人口は十七万人、うち外国人登録者千二百人で、その殆どが韓国・北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)の由。

国際化に対応するため、鎌倉市では役割分担を明確にしています。国際理解という教育的なものについては公民館が受け持っており、各種のイベントに

に学ぶ(4)からの提言(下)

大和町公民館長
小千谷市公民館長
十日町市公民館副参事
糸魚川市中央公民館長
県公連事務局長

関するものについては文化振興課が中心になる。その場合、公民館は会場としての施設提供者であつたり、支援体制の中で連携をしているというものです。中央公民館では三本の柱を立てて交流活動を実施している由

(1)交流のきっかけづくり
各種の講演会、講座、語学教室、演奏会など。

(2)交流の場づくり
研修生との交流会、文化学習会、海外料理教室、在日外国人への日本語講座、外国人サークルへの会場提供など。

(3)情報提供の場づくり
各国大使館からのビデオの借り受け(文化振興課)、同ダビング(公民館)、国際情報コーナーでの貸し出し(図書館)、また、外国人向けの英文情報紙「ザカマクラポスト」を作成(市民グループと外国人ボランティア)などです。

しかし、国際交流と言っても外国人には、滞在の目的、生活習慣、金銭感覚など多くの部分で意識が異なり、交流の方法を十分検討を要する。先を見通した交流活動はどうあればよいか



が課題だと言っていました。上村 一般的に公民館の事業というところ「英語教室」などの外国語教室や講座が多いようすが。

大淵 部会参加者の多くの事例は「英会話学習」が圧倒的で、中には、指導の外国人教師に不適當な人(方言が多く)で失敗したから注意するようにといった勧告さえ出ていました。

そうした中にも、お茶や料理など日本文化を学びたいという外国人もたくさんおり、その学習を開設して喜ばれている公民館、反対に中国料理を習いたいという市民への中国人による講習会など様々な報告がありました。一つ興味をそそられたのは、例えば、中国料理を習う希望者があつた場合に、料理だけの講習ではなしに、中国の舞踊を加えたり、語学なども加えたり、マルチ学習を展開するのが喜ばれるということでした。これな

どは公民館のメリットであろうと思ひます。

寺崎 国際理解とか国際交流については、大都市と農村部では格差がありますが、今のお話は参考になりますね。

また、英会話教室などがいちばんやりやすい事業であることは確かですね。

農村部ではまだまだ外国人と直接接する機会が多くあるわけではないから勢いイベントに頼ることになります。

草の根の交流を

森山 大和町は御承知のように国際大学があり、その教授や家族、学生との接触の機会が得られるので、自然の触れ合いの中で国際理解や交流を広げようということをやっています。

あまり派手なイベントはやらないうようにしています。例えば、英会話教室では、国際大学の先生や学生を講師にお願いしておりますが(ここまでは変わったことではありませんが)その教室終了のあと、卒業した受講生が「中級グループ」を作って、学生たちとの交流を深めるといふ方式をとっています。コミュニティー交歓会なども行なっているわけですね。その交歓会の中で、日本文化を知らせるとか、外国の文化や人情を識るといふふうにしていきます。ですから、打ち

上げ花火のようなイベントは必要がないわけです。

羽鳥 小千谷市では、大上段に公民館が国際化社会に向けての事業と取り組んでいるわけではありませんが、実態として数十人の外国人が市内に居住していますので、可能な限りの対応をしています。例えば、ホームステイ(東南アジアからの農業実地体験をしている人)や観光ビザで来ている人も数人います

が、言葉が通じないことには交流になりませんから、言葉の理解として、語学教室が根強い人気を博しています。そうした活動の中から海外青年協力隊に参加する青年も出てきています。(今年三名)又、勤労青年ホームの活動を通じての海外研修の候補者が出るなど住民の国際理解への視野が広がっています。

大淵 先程大和町さんが、派手なイベントはやらないうちと申し上げましたが、分科会の中にも国際交流フェスティバルといったものは、きっかけづくりには役立っても、それがそのまま本物にはなっていないといふ主張に同感の声が多かつたようです。

国際理解は違いを知ること森山 むしろ、ご馳走づくりを体験的に教えあうような草の根交流のほうが効果的です。先日

会集研公口ブ関 会分科分 座談会

新治雄 春郎
昌英 直捨
山鳥 淵崎
森羽 大寺上
第7分科会
第10分科会
第11分科会
第12分科会
聞き手

韓国大邱市の大学の日本語科の学生が来町して、さわらびホールで「夕鶴」が上演され人気を博していました。また、国際大学では、年に二回大学を開放して、地域の住民を招聘して、フォークソングやダンスに興じる機会も作ってくれています。

上村 国際交流という面では、大都市と農山村とは条件が違いますが、必ずしも一様ではありませんが触れ合いの深めること、国際理解という面では、それぞれの文化の違いを認識しあうことだ、とまとめることができましよう。それが国際化の第一歩であり、これほどこの公民館でも実施できることだと思

います。ですから、国際化社会にむけての公民館の役割は、抽象的な言い方ですが、いま、世界がどのように変化しているかを認識すること、そして、どのような日本人にならなければならぬかを識るための学習活動でしょうね。

それでは、最後に情報化社会と公民館の分科会について、寺崎さんどうぞ。

四、情報化社会と公民館

コンピューターばかりが

情報メディアでない

寺崎 発表者のテーマは「情報システムとその活用について」というもので先進地の事例としては勉強にはなりましたが、正直に言って余りにも規模が大きすぎて参考にはならなかったというのが偽らざるところです。

それでもアウトラインだけは紹介してみます。発表者は、楽器の産地で有名な静岡県浜松市の中部公民館の方でした。

社会教育費が五十億円、これとは別にイベントには一億円を自由に使っているのだということ。施設は、六階建て延べ面積一万平米余の「クリエイト浜松(浜松市文化コミュニティセンター)」で四つの機能を持っています。

①市民ギャラリー②



大淵氏 山鳥氏

視聴覚ライブラリー③生涯学習センター④中部公民館(市内27公民館のうちの一つで市の中心部がエリア)

そこでは、施設案内・イベント情報を瞬時に取り出せる文化情報システムや、映像学習・音楽鑑賞・ニューメディア体験が楽しめるシステム等々が整備されているということ。

公民館へやってきた市民が、ボタン一つ押せば、いま何をやっているか、どんな事業があるのか、職員の手を離さないで一目で分かる。また、他の八

公民館(平成四年には全公民館)にコンピューターの端末が繋がっており、それぞれの公民館の事業がインプットされていて情報を入手することができるよ

うになっているということでした。

上村 なるほど。それでは同じテーブルで話し合えない公民館のほうが多いわけですね。

寺崎 そうです。ですからここでは、ワープロ程度の、手刷りの情報紙による程度の情報化を話し合いたいものです。

上村 それでは、お言葉にしたがい、「情報化社会と公民館」という原点についてどうぞ。

寺崎 情報化社会即ニューメディアの感がありますがそうではないと思います。コンピューターに振り廻されるのではなく、昔ながらの公民館報や口コミによる情報提供などをもっと大事にする必要があるというものが参加者の多くの意見でした。

それと、公民館が市民とのコミュニケーションを深めるためには一方通行のコンピューターでは不十分ではないかという不安の声もありました。

森山 情報を提供したらそれが帰ってくるようにする必要があり、川市(静岡県)では、「市長レポート」を月一回発行していますが、これは提供した情報の反応や返事が戻ってくるようにしているものなんです。公民館が実施する生涯学習、行政の他の系列でやる学習についてただ知らせる

だけでなく、その事業への要望や不満が、反応として帰るシステムを用いているのはさすがだと思います。

大淵 コンピューター情報でいま問題にされているのは、個人情報に許しすぎて個人のプライバシーを侵害する危険という短所が指摘されていますね。この辺のことを慎重に取り扱わないと人権侵害になりかねません。それから、高齢者はメカニズムに弱いということもよく承知しておく必要があります。

羽鳥 情報の受信地になるだけでなく、発信地になることも必要なわけですね。日進月歩で伸展する情報メディアですから、公民館をマルチ型にして、リカレント教育を推進すべきという論もうなづけます。したがって、それぞれの地域の実情に添うものとして考える必要があります。

上村 本県の教育界でも、新しい県立図書館の竣工の暁には、いよいよ本格的なニューメディアによる情報化社会が到来するでしょうから、今のうちから、公民館のサブイバルのために、学習相談員のことだとか、メカについての研修など、対応を考える必要がありますね。

どうも長時間有難うございました。今年もお元気で。

分水町公民館

大井町公民館を訪ねて

一、はじめに

十月三十日の昼過ぎ、私も一行を乗せたバスが大井町公民館正面に到着したとき、車内から思わず喚声があがった。というのは、

館前のペープに大相撲興行のように林立する色とりどりの旗が立てられてあったから。これは、翌日スタートする町民文化祭の出品グループのデモンストレーションと判明したが、この活気一つで、今回の訪問研修が「当たり！」であったと確信できたのである。

ここ、埼玉県大井町公民館訪問のきっかけは、昨年九月に湯沢町で開催された「第32回関ブ口公研集会」が縁である。公運審部会に参加し、大井町の実践発表を聴いた当町公民館の係長「ぜひ見学研修に寄せてほしい」と申し込んだことから、このたびの社教委員・公運審委員(一行二十一名)の合同研修視察が実現したものである。

二、大井町の概要

人口三万九千余、面積七・九平方料。東京のベッドタウンとして急激に都市化が進み、純農村から急変貌、水田のない町。小学校六、中学校三、高校一、私立女子大一

三、公民館施設の概況

①中央公民館 二階建延床面積三、九一九平方米、視聴室(ステージ付)、児童室、情報交換室などがユニークな施設。特筆すべきは、定員七百名の本格的ホールがあり各種催しに活用されている。

②地区館と分館 南公民館(地区館)の他に、地域の半径五百米に一館の割りで十六の分館がそれぞれ独立した館として地域活動の拠点となっている。

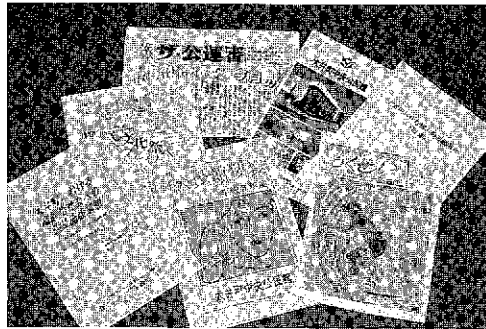
四、事業推進の指針

①分館活動の活性化を目玉事業に据える。このため、これまでの「出前公民館」を発展し「モデル分館事業」として展開する。
②運営体制(パート職員採用)により、ウィークエンド学級やサンデー講座など、勤労者を

ターゲットに絞った学級講座の展開を図る。

③公民館職員が専門的力量を高め、各機関が実施する事業との連携を深める。

④今後の高齢化社会に対応する公民館の役割として福祉との連携を深めることが重要である。このため、住民が自主的に学習が行なえるよう「公民館利



用者懇談会」の設置とその活動を最重要課題とする。

五、特色ある事業

- ・カウンセリング講座
- ・アジア交流セミナー(言語、文化、政治等多角的)
- ・公民館入門講座(サークルとの共催事業)
- ・モデル分館事業(地域の持つ

教育力を活用)

・公民館サロン(投げ銭によるトークなど)

・女性セミナー(夫が荷物にならない方策)

・ひまわり教室(障害者の陶芸教室)

・国道沿線文化交流会(沿線公民館巡回展示会等)

六、運営面の特徴

・会報「ザ公運審」の発行 毎月一回公運審を開催し、諮問事項には全て文書で答申する。「ザ公運審」も毎月発行、委員だけの手作り、本音の辛口の内容。

・同じ講座は二度開設しない 受講終了者をサークルに育てて社会への還元を図ることにしてはいる。当初最低百のサークルを作ろうと始めたが今は二百になっている。

・社教行政と公民館は分化 社会教育課は社教行政、施設計画、相談を担当。学級講座はすべて公民館と明確に分化区分している。

・学習権は常に住民に 公民館が行なう生涯学習は自然や伝統文化など地域の持つ特色を生かした学習を推進する。(リカレント教育は大学開放で実施)したがって、多様な情報を住民に提供するこ

とに努めている。

七、訪問を終えての感想

大学新卒以来公民館一筋に活躍してきた沼田事業係長の説明は、確かな計画と実践に裏付けられ、自信に満ちていた。「サークルを作れない職員は公民館職員としての資質に欠けると思え」をモットーに受講終了者のサークル化に努めた、というくだりは迫力が感じられた。

私どもの訪問に、事業係長と一緒に公運審正副委員長からも詳細な説明があったということは、だてに毎月定例に公運審会議が開かれているのではなく、有効に機能していることの証左であろうと納得した次第。

ひるがえって、ようやく生涯学習の推進体制が緒については、大井町としては、「人・物・金」すべてが羨望の的であった。事業はそう大差はないと強がってはみたものの、運営面や人の面で学ぶべき多くのことを教えられた。

翌日見学した「埼玉県民活動センター」の、最先端を行く生涯学習施設の壮大な規模の施設設備に、やはり「箱物の必要」を痛感した。

(分水町社会教育指導員 土田 明 記)

サークル交流

趣味の活動からボラン ティアへ 牧村映写友の会

私たちの会は、平成二年に公民館で行われた高齢者十六回映写機操作認定講習会で免許を取得したメンバーを中心として発足したまだ若い会です。

六〇歳の手習いと言いますが、最年長者は八十三歳なので、しばらく映写機を使わないと操作方法を忘れてしまうなど毎回が失敗と勉強の繰り返しです。

活動は月一回の定例練習会が主ですが、何か社会の役に立つことをと、昨年は「夏休み子ども野外映写会」を行いました。



も野外映写会」を行いました。フィルムを選定、スクリーンの設置や運営方法など始めてのことばかりで苦労しましたが、当日は百五十人もの子供が集まり大盛況で、会員も充実感を味わった一日でした。また、地区老人クラブの研修会や高齢者交通安全教室での映写も行い、皆さんに喜んでいただきました。

現在は、新しい技術に挑戦しようとしてビデオカメラに取り組んでいる最中です。今後も健康なかがり、社会に貢献できるような活動を続けていきたいと思っています。

(映写友の会代表 成見正義 記)

広 が れ、広 が れ

子育ての輪！

見附市「親子リズムサークル」親子リズムサークルは、今から三年前の五月に新日本婦人の会のおかげで始めました。

核家族化や乳幼児数の減少で母親が孤独におち入ったり、子ども同士のおふれあいが少なくなったりしている昨今、「ひとりぼっちの母親をなくそう、子どもがふれ合う機会をふやそう」



というのが目的です。

内容は、埼玉県深谷市さくらんぼ保育園で開発されたリズム運動を中心に、手遊び、粘土遊び、切り紙、ダンボール遊びなど。また、晴れた日は公園へ散歩、夏は水遊びやプール、春秋はハイキングにも行きます。

最初わずか七名だったのが今や二十五名、生後七カ月の坊やから四歳児までいるにぎやかさ。入会以来ずっと母親から離れなかつた子が三歳すぎでリズムをするようになったり、言葉のなかなかなか出なかつた子が集団の中でぐんぐんしゃべれるようになったり。子育ての輪を広げながら親も子も成長していく場それが親子リズムサークルです。

(大 高 恵美子 記)

鳥屋野地区公民館、主事補

青 柳 裕 子 さん (23歳)

新規採用として公民館に配属されたのが二年前。社会人としての緊張感と公民館の仕事に対する不安も持ち前の明るさで吹き飛ばして今や押しも押されぬ我が館のアイドルとなった。職員として心掛けている事は多くの市民と良いコミュニケーションを持つ事であると電話や窓口での応対に気を使っている。心優しい人柄は家庭環境か

家庭環境か

らか祖父母、両親と同居である。今は若い母親の学習活動に積極的に関わり保育室の運営を一手に引き受け、幼児からも「公民館のおねえさん」と親われているのを見ると将来の「優しいお母さん」の姿が想像できる。理想の人はその場の状況判断がきちんとできて友達がたくさんいて包容力のある人。こんな人がいたら今すぐにも結婚したいそうであるがスキー、海外旅行にと出かけるあたりまだらしい。只今花婿募集中の裕子さん。(新潟市鳥屋野地区公民館 梶 瑤子)

素 顔 拝 見

和島村公民館主事

笠 原 芳 彦 氏 (37歳)

昔、男ありけり、当村から全国青年大会に剣道で出場する。平成の世になつて、公民館に就任した。何せ中小企業も驚く？すべて一人で担当する厳しい環境。



る「青年夢」事業、「沼垂城」木筒出土で全国区となつた、八幡林遺跡の土を利用した「陶芸教室」や「歴史講座」等多方面に大活躍中！

そこは持ち前のバイタリティーと豊かな感性、押しとアールコールの強さ(失礼)で、次々と新規事業を開発する。

例えば、幼児とその両親を対象とし、保健婦とのジョイントで「ひよこ教室」、現代難攻不落とされる青年層を組織・育成す

もちろん、ご多分にもれず、事業量に反比例して家庭サービスは下がるばかり、上がるのは嫁さんの理解度？

体に気をつけて、太っ腹を気にせず？ がんばって下さい。(和島村教育委員会 矢部政夫 記)

(和島村教育委員会 矢部政夫 記)

ネットのうら

こども館報ほりのうち ふれあい十九号

堀之内町公民館

公民館報を刊行している市町村は県内に決して少なくないが、小・中学生を対象にした「こども公民館報」はまことに珍しい。それも、集落単位の分館とか、集落公民館で発行しているものではなく、全町規模の館報としている例は県内唯一ではあるまいか。

その、「こども公民館報」を発行しているのは堀之内町公民館。昭和六〇年創刊以来七年、十九号を数えている、特色ある公民館の情報活動である。

発行部数三千部弱、小・中学校の児童生徒の有無にかかわらず全戸配布となっている他、各小・中学校にも配布され、学校相互の情報交換、公民館への理解や関心を深めるメディアとして成果をあげているという。

編集委員の構成は学校代表四人(三小中学校、一中学校の各校から一名)、母親代表二人、公民館(編集部)二人の計八人であるとか。

ちなみに、編集の方針は、① つとめて、子どもたちを多く紙面に登場させ、活字媒体に親しませるとともに、各学

こども館報ほりのうち
ふれあい
No. 19
昭和六一年四月



わたしの館 (堀之内町公民館) 編「わたしの館」の表紙

わたしの館
「わたしの館」は、子どもたちの生活や学習の様子を伝えるためのページです。ここでは、子どもたちの作品や、公民館での活動の様子を紹介しています。

校のトビックの紹介など情報の相互交流により、コミュニケーションを深める。

② 子どものいない家庭にも興味や関心を持ってもらえるように工夫し、町ぐるみの「青少年健全育成」に向けて役立たせたい。

まちからみまから

【三条市の巻】

保内熱帯植物園

「寒中でも花と緑」の
越後平野はいま、白で雪化粧中ですが、三条市保内にある熱帯植物園の温室の中は、外の寒さを気にしないで、花と緑の熱帯植物を觀賞できます。

昭和六十一年四月に開園した保内公園は八・八ヘクタールの自然のままの丘陵と地形を生かした都市計画公園で、市民の憩いとくつろぎのグリーン・ゾーンとなっています。

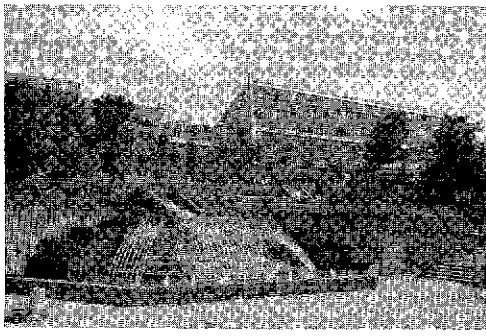
保内地区は、三条市の東端、加茂市との境界に接し、古くから「植木の保内」として、数十軒の植木屋さんや、園芸業者が軒を連ね、植木の産地として伝統のある土地柄です。

公園内には、緑の相談所、日本庭園、水の広場、遊歩道のある自然公園と、越後平野を眼下に見渡せる見晴台もあり、なかでも八百七十八坪の温室の中に

③ 公民館への理解関心を深めて、公民館活用の子備軍として、生涯にわたる学習者になることを期待する。

ということのようである。

(情報提供 堀之内町公民館 主事 兄玉 政広)



は、約百三十種、千八百本の熱帯植物が、盆栽程度の小さなものから十数メートルの幹木などがギッシリと繁茂して、ジャングルとなっており、ポイラーによる温水暖房で、常に二十度近くの暖かさ。

カナ文字の名札の初めての樹木に、次々と色とりどりの花が咲き、絶えることがありません。

みなさんも寒い雪国の熱帯植物園の中で、南国の気分を満喫してみませんか。入園無料 (三条市中央公民館)

あとがき
◆先日は、東京周辺を見舞った雪と地震のダブルパンチ。交通網はズタズタ、人は転んで大怪我。僅か十種そこそこの雪なのに、人も機械も足腰の弱いのに驚くばかり。平日でなかったのが不幸中の幸というべきか。それにしても、このすさまじい一極集中にこりない面々。

◆こちら越後人の足腰は強い。いま、克雪・利雪のイベント花ざかり。雪合戦に雪まつりに雪像づくりにと、大奮闘。ごくろうさまです。

春はそこまで来ています。ともにかんばりましょう。(上村記)

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 木下 清一
編集人 事務局長 上村 捨二郎
【定価1部 120円 年共 1,440円】